



佐藤 優の

# ウチナー評論

〈468〉

今日は嫌な話について書く。東京メトロポリタンテレビジョン(MXテレビ)が2日に沖縄に対する差別と偏見を拡大する番組を放映したからだ。

番組は月曜午後10時から放送中の「ニュース女子」。東京新聞論説副主幹の長谷川幸洋氏が司会を務め、時事問題についてゲストが語り合う。番組のホームページには「物知りな男はカッコいい!」ここは、ニュースを良く知る男性とニュースをもっと良く知りたい女性が集う、大人の社交場」とある。地上波のローカル番組で、東京都内などで見る事ができる。1月2日の放送で、高江のヘリパッド問題について、軍事ジャーナ

## 沖縄ヘイト番組

### 差別と偏見助長に異議を

リストの井上和彦氏が現地の様子を報告した。VTRの冒頭、井上氏は警察署前で抗議活動をしている人を遠くから眺め、「いました、いました。反対運動の連中がカメラ向けて

響の少ない65歳以上のお年寄りを集め、過激デモ活動に従事させているという」と続いた。井上氏がトンネル前に立ち「このトンネルをくぐる」と建設現場」と説明し、「反対派の暴力行為により地元住民でさえ高江に近寄れない状況」とナレーションが流れる場面も。ただ、このトンネルからヘリパッド建設現場まで

事実はない」と答えている。(18日朝日新聞デジタル) 13日、放送倫理・番組向上機構(BPO)の放送倫理検証委員会は、MXテレビから報告を求めると決めた。審議の対象にするかどうか、今後検討することになるが、事態の深刻さからして審議の対象にするのが妥当と思う。それとともに深刻なのは、

いるとこつちの方見えます」とリポート。近づくと敵意をむき出しにして緊迫した感じになりますので、このあたりでやめておきます」と伝えた。米軍普天間飛行場の移設予定地の名護市辺野古では、抗議活動について車中から「定年を過ぎたような人たちがばかりですね」。ナレーションが「万一逮捕されても生活に影響

は直線距離で25キロ。この間ではリゾートホテルなどが営業し、一般の人も自由に行き来している。また地元住民にインタビューし「(反対派が)救急車を止めて現場に急行できない事態がしばらくずっと続いていた」とも伝えたが、地元3村を管轄する国頭地区行政事務組合消防本部は朝日新聞の取材に対し「そのような

「東京新聞」論説副主幹の長谷川幸洋氏がこの番組の司会を務めていることだ。司会者は番組の構成にも関与している。さらにこの番組に長谷川氏は「東京新聞論説副主幹」という肩書で出演している。論説副主幹は、「東京新聞」の社論を形成する立場にいる。「東京新聞」は、東京で多くの読者に読まれている新

聞の中では、沖縄の現状をできるだけ深く、虐げられている人々の立場を伝えるという報道姿勢を取っている。その新聞社の論説幹部が、事実と異なる内容で沖縄ヘイト(憎悪)言説を、地上派で拡散していることは看過できない。東京の地上波局がこの種の沖縄ヘイト番組を放映したのは、筆者が知る限り、今回が初めてだ。沖縄人がMXテレビによる沖縄ヘイトに対して異議申し立てをしないと、東京の他の地上局にもこの種の番組が拡大する恐れがある。筆者は「東京新聞」に連載コラムを持っている。27日掲載予定のコラムに長谷川幸洋氏が、沖縄ヘイトに関与していることについて、どのような認識を持っているかについて、「東京新聞」の姿勢を明確にしたいと要請するコラムを書こうと思っている。(作家、元外務省主任分析官)